

那覇国際高等学校

令和5年度一般入学者選抜合否判定手順 公開資料

1 募集人員

一般入学の募集人員は、募集定員から推薦入学内定者数を除いた人員である。

2 選抜の方針

- (1) 選抜は、調査書(第2号様式)、学力検査等の成績及び面接の結果をもとにして、総合的に行う。
- (2) 調査書(第2号様式)と学力検査の成績の比重は4：6とする。
- (3) 国際科の選抜において、学力検査の英語の傾斜配点(1.5倍)を実施する。
- (4) 学力検査の問題に本校独自の問題は付加しない。
- (5) 志願者全員に対して面接を実施する。
- (6) 帰国子女については可能な限り配慮するものとする。
※ 帰国子女とは、「海外または日本国主権の及ばない地域において、継続して1年以上教育を受けた者で、かつ、志願時点で帰国後2年以内の者」をいう。

3 特記事項について

- (1) 特記事項Ⅰ
 - a 特別活動の記録で特に顕著な実績があると認められる者。(生徒会正副会長等)
 - b 諸活動の記録で特に顕著な実績があると認められる者。(県代表(全国大会・九州大会出場レベル等)の表彰以上等)
 - c 資格保持者。(英語検定2級以上、漢字検定2級以上、数学検定2級以上等)
 - d 学力検査点が著しく高い者
- (2) 特記事項Ⅱ
 - e 行動等の記録に好ましくない記載がある者
 - f いずれかの学年において、正当な理由のない欠席が5日以上のある者。
 - g 教科の評定に1がある者。
 - h 学力検査において、いずれかの教科の得点が20点以下の者。(60点満点×0.35=21点)
- (3) 特記事項Ⅲ
 - i いずれかの学年において欠席(病欠・届出欠席を含む)が30日以上のある者。
 - j 学校医所見欄等で特記事項のある者。
 - k 帰国子女である者。

4 判定方法

(1) 各圏の設定

内申補正合計点(調査書内の1～3年までの国語、社会、数学、理科、英語の評定と、音楽、美術、保健体育、技術・家庭の評定に補正係数1.5を乗じて合計した点数の合計点)と、学力検査点の総合得点の比重が4：6となるように合計点を算出し、合計点の大きい順に並べて各圏の設定を行う。

① A圏

成績上位順に募集人員の80%～85%程度をA圏とする。ただし、第二志望の学科で判定を行う場合はB圏とする。

② B圏

A圏の次点から成績上位順に、募集人員からA圏の人数を減じた数の2倍の人数をB圏とする。

③ C圏

B圏より成績が下位の者

(2) 帰国子女等

帰国子女等については可能な限り配慮するが特別に帰国子女枠を設定しているものではない。

(3) 判定手順

ア 第1審議：A圏の中で特記事項Ⅱ該当者を確認し、A圏を審議する。

イ 第2審議：C圏を審議する。

ウ 第3審議：B圏を審議する。

※ 特記事項Ⅰおよび特記事項Ⅲの該当者については確認を行い、審議する。

※ 普通科における通学区域外合格者の総数は、募集人員の10%以内とする。ただし、学区内からの志願者数が募集人員の90%に満たない場合はこの限りではない。